

飯伊地区 産業経済動向

No.540 2024/3
(6.4.25 発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
しんきん南信州地域研究所

<https://www.iidashinkin.co.jp/>
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132



Contents

表紙	写真：リニア長野県駅予定地に残された桜（上郷飯沼北条）	P 1
製造業	景況DIは前月からやや改善。先行きについては分野により見方が分かれる	P 2
建設業	令和5年度の公共工事は前年比減少、一昨年比ではほぼ横ばい。 2月の住宅着工は前年比6%減少	P 4
商業・サービス業	景況DIは前月からやや改善。飲食業は好転の声多いが、宿泊業は悪化との声が多い	P 5
しんきんリニア・三遠南信対策室です	リニア中央新幹線についての定点観測アンケート ～当地域の期待度は高水準で推移～	P 6
主要経済統計		P 10
飯伊地区全産業景況DIの推移・主要経済指標		P 12

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ（<https://www.iidashinkin.co.jp/>）に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

概況 景況DIは前月からやや改善。先行きについては分野により見方が分かれる

当月の製造業の業況判断指数（DI）プラス7.5で、前月から7.5ポイント上昇。翌月予測はプラス2.5で、前月から33.2ポイント低下。機械製造では当月景況感が横ばいとの声が多い一方、食品製造では好転との声が多く、全体ではややプラスとなった。先行きの景況感については、機械製造のうち電気・精密・光学分野で悪化を見込む声が多く、一方で食品製造では好転を見込む声が多く、全体ではプラスとなったものの先月を大きく下回った。半導体向け分野では一部に好転との声もあるが、本格的な回復はまだ先との声が多い。

主な業種の動き

●電気・精密・光学

- ☑受注、販売… 販売、受注ともに前月比は業者により増減分かれるが、販売は減少との声やや多い。先行きについては、販売、受注ともに増加と減少の声が拮抗している。
- ☑景況感…… 当月の景況感は好転と悪化の声が拮抗している。先行きは、悪化を見込む声が多い。

[企業からのコメント]

- ・「直近では1月が正月休みの影響もあり売上の底で、2～3月にかけてやや増加。4月も3月よりはやや増加の見通し。しかし、5月にはまた連休の影響があると考えられ、5月の仕事確保が近々の課題」「当初は増産になるとの情報だったが逆に減産となった。受注状況が悪いという担当者がほとんどで、上向きタイミングが分からないとの話を聞く」
- ・プラント関係、建物付属設備(空調)などに動きが出ている。

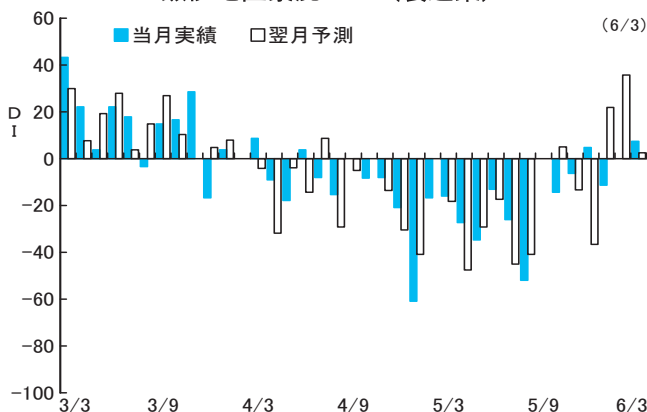
●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- ☑受注、販売… 販売は業者により増減分かれる。受注は横ばい～増加。
- ☑景況感…… 当月の景況感は業者により見方が分かれる。先行きは横ばい～やや好転。

[企業からのコメント]

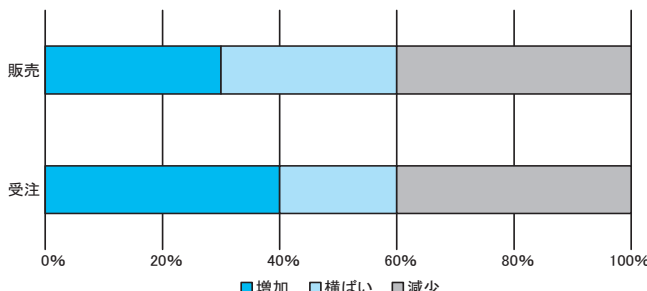
- ・「受注残高は1年5か月ぶりに大幅に増加した。本格的な需要回復にはしばらく時間がかかるが、販売も微増傾向が続いている。受注残高が増えてきていることから、先々の販売高は上昇傾向を予測している」「例年、3月の売上は芳しくないが、今年の3月は非常に厳しかった。4月も伸び悩んでおり、厳しい状況が続いている」
- ・「株価高騰やメディアの報道とは裏腹に需要が低迷しており、厳しい状況が続いている。製造装置メーカーの在庫がまだまだあり、在庫が一扫されてくるまで厳しい状況は続く。それでも、昨年より微増傾向となってきており、底をようやく脱した感じは出てきている」「半導体業界の市場動向は、未だ明確な回復時期が見通せず、先行きの不透明感は拭えない。取引先や新聞などで、夏頃の回復と見聞きするが、当社の顧客からは具体的な話はない」
- ・「原材料価格は概ね変化がなく、高止まりしている状況」「原材料はじりじりと上がっているものがあるが、大きな単価の変動はない」
- ・厳しい状況が続くが、半導体以外の業界への営業活動に注力し、回復までの売上の底上げを図りたい。

飯伊地区景況DI（製造業）

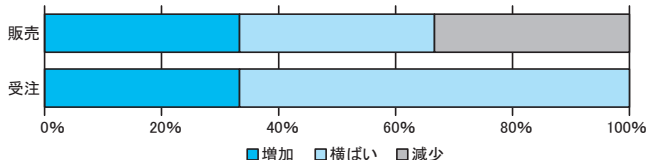


【DI（ディフュージョン・インデックス）とは…
景況に関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。
「先月と比べて景況が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景況が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

電気・精密・光学向け部品前月比回答割合



半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合

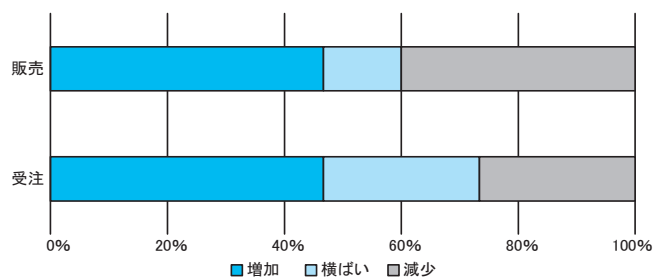


●産業機器、医療機器向け等機械部品

☑受注、販売… 販売、受注ともに、業者により増減分かれるが、増加との声がやや多い。先行きは、受注は横ばいを見込むとの声が多く、販売は減少の声がやや多い。

☑景況感…… 当月は横ばいとの声が多い。一方、次月以降は悪化を見込むとの声がやや多い。

産業機器、医療機器向け部品前月比回答割合



[企業からのコメント]

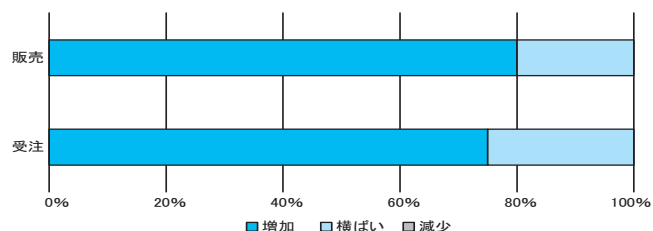
- ・「部品製造では航空機、防衛産業の分野は受注が安定している。3月の駆け込み受注が終わり、4月は少し落ち着いている」「産業機器部品が増加傾向。背景にあるのは、人手不足により国が省人化設備投資等に補助金を出して促進している。国内はデフレ脱却で賃金、物価、株価の上昇、経済が好循環になって行く事を願う」「ものづくりを中心とした展示会で情報収集しても、今景気が良いという話はほとんど聞かない」「全般に動きが悪く、話は来ているが発注のタイミングが見えてこない」「親会社の積極的な経営方針が示されず、下請け企業は不安な毎日を送っている」
- ・物価上昇が先に来て、大手企業が賃上げ回答が5%を越して来ている。中小企業も賃上げを同レベルにしたいが、顧客から賃上げ分の価格転嫁による上昇を承認してもらえるか、交渉の土台に上げている。

●食品製造（漬物、半生菓子、菓子原料、その他食品）

☑売 上… 漬物は、前月比はやや増加～増加。菓子は前月比は横ばい～やや増加。

☑景況感… 当月は横ばい～やや好転で、やや好転との声が多い。次月以降も好転見込みとの声が多い。

食品製造 前月比回答割合



[企業からのコメント]

- ・「売上が落ち着いてきた。もう少し伸びてほしい」「都市部での販売は増進傾向にあるが、地方での販売が減少している」
- ・「食品全般に値上げが浸透しつつあるが、値上げ後の数量減は致し方ない。まだまだ価格改定が必要と考えている」「食料品の値上げによる、消費意欲の減少は継続中」
- ・「受注は増加しているが、原料野菜が天候不順の影響で品数が少なく、欠品などのチャンスロスが発生している」「天候の具合もあり、原料である野菜の収量が安定しない。一部原料では品薄感が出ている」
- ・飲食店はあまり良くない様子。量飯店は全体的に売れている様子。高級牛肉などは動き悪く、鶏肉などは売れているという。

●水引製品、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

☑売 上 … 前月比、次月以降とも業者により増減分かれる。

[企業からのコメント]

- ・年末に向けての予約受注に全力を投じている。生産体制も年間売上目標を基準に製造計画を立て、生産能力を強化。各地域で祭事・催事も完全復活。海外観光客（神社・仏閣巡り）が増加、円安による割安感（土産品として）が購買意欲を後押し。
- ・祝儀等、冠婚葬祭は減少が続き、少子化で関連商品も低迷しているが、商品値上げでカバーして利益確保ができた。
- ・円安・インフレにて部材仕入価格高騰。海外からの輸入依存が高い同業者には厳しい状況が続く。

●上記以外の製造業

☑建築用金属製品 … 販売は前月比、前年比ともやや減少。景況感は横ばいという。

☑自動車向け部品 … 販売は前月比では横ばい。景況感は横ばいだが、先行きは好転見込みという。

☑印 刷 …… 販売は前月比では増加、前年比では減少。先行き景況感は悪化見込みという。

[企業からのコメント]

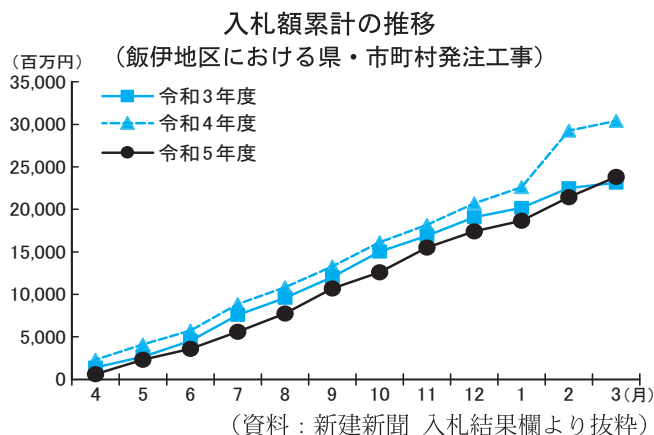
- ・ゼネコンの現場の遅れもあって、予定よりも環境が落ち着いてしまった。今後、2024年問題により更なる工程の遅れ、運送の問題が発生してくると思われるが、都心の再開発案件は計画も含めて多くあるため、それに向けて体制を整えていくしかない。
- ・車載電装品の受注では、大手はほぼ横ばいで推移するようだが、メーカーによっては上限下限にばらつきが大きいようだ。
- ・印刷業界では年度末である3月が一番の繁忙期であるが、前年対比で売上は伸びず。昨年は統一地方選挙関連の仕事でかなりの売上があったが、今年はそれに代わる特需の仕事がなかった。

建設業

官公需

概況 令和5年度の公共工事入札金額は前年比21.9%減少、一昨年比では2.7%の増加

- ☑公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約24.0億円（4月15日調査時点）。前年に比べ109.3%増加、2年前との比較では292.8%増加。
- ☑受注残高…………… 当月、先行きともに業者により増減分かれるが、増加との声が多い。景況感は、当月、先行きともに大きな変化はないとの声が多い。
- ☑原材料価格…………… 当月、先行きともに上昇を見込むとの声が多く、下降との声は聞かれなかった。



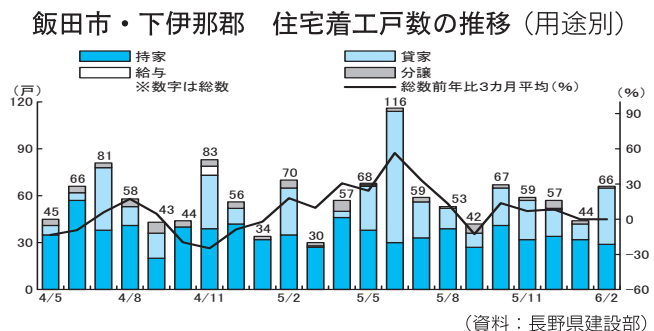
[企業からのコメント]

- ・「土木は年度末で工事が竣工してくるので忙しく、また新年度の工事でも発注になって競争が激しい状況」「通常公共工事の発注と国土強靱化対策の橋梁等の補修工事の受発注が進んでいる。年度末工事の変更協議が終わり、期末までの完成工事高も決まりつつある」「土木は新年度工事を受注しないと仕事が切れてしまう会社が多く、今発注の工事の入札競争が激しい」
- ・「どこの会社も人材不足と在庫量の確保に苦労している」「施工職員が不足。中途を含め、採用を強化していく」「今後、作業員を募集予定」「人材不足、特に専門業種の不足が課題」

民需

概況 令和6年2月の住宅着工戸数は66戸で前年比6%減少。
貸家は増加も、持家・分譲が減少し、3か月ぶりに前年比マイナス

- ☑住宅着工戸数… 当地区の2月の住宅着工戸数は66戸。前月比50%増、前年比では6%減。持家の戸数は29件で前年（35件）から減少。貸家が36件で前年（30件）から増加。分譲は1件で、前年（5件）から減少。
- ☑原材料価格…………… 前月比では横ばいと上昇の声に分かれるが、先行きは上昇を見込むとの声が多い。



[企業からのコメント]

- ・「建築工事は大きな箱物もなく、住宅着工も少なくリフォーム等の細かい工事が多い」「新築住宅はポツポツ受注があるが、一般工事はパッとしない」「新築は少ないのでリフォーム工事が多い印象」
- ・「三遠南信道路やリニア関連工事で土木業者が忙しく、またダンプなどの運転手不足もあるのか、造成工事の値段が高くなっている」「個人客のほうが物価上昇による価格の転嫁には理解があるように思える」
- ・南信地域においてはリニア開通遅れで、より一層建設業（土木以外）は冷え込みそう。リニア駅の設置や防災上の観点から、当地域に関心が集まっているとの話はあるので、企業誘致や開発が進みそうな気配はあるが、長期的に構える必要がある。

建設資材等

概況 3月の生コンの売上は前月比減少～やや減少、前年比は業者により増減分かれる。骨材は前月比やや減少、前年比では増加

- ☑生コン … 売上は前月比では減少～やや減少。前年比では業者により増減分かれる。
- ☑骨材 … 売上は前月比やや減少、前年比では増加。

[企業からのコメント]

- ・当月の生コンの主な出荷は、リニア関連工事、三遠南信工事、工場・事務所建設、護岸工事に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の約5割。
- ・「リニア天竜川橋梁工事への生コン出荷がそれなりにあったため前年比では上回ったが、前月比では下回った」「2月の売上が多かったのをそれに比べると下がったが、ここ数年では2月に次いで多い出荷となった」「リニアに関係していない生コン工場は仕事が少ない」「三遠南信6号トンネルの起工式があり、今後トンネル用骨材の出荷が見込まれている」
- ・公共発注工事の設計単価も上がっており、一般建設工所用骨材の業界の市場価格が4月から値上がりする。今後、段階的に値上がりの傾向。

商業・サービス業

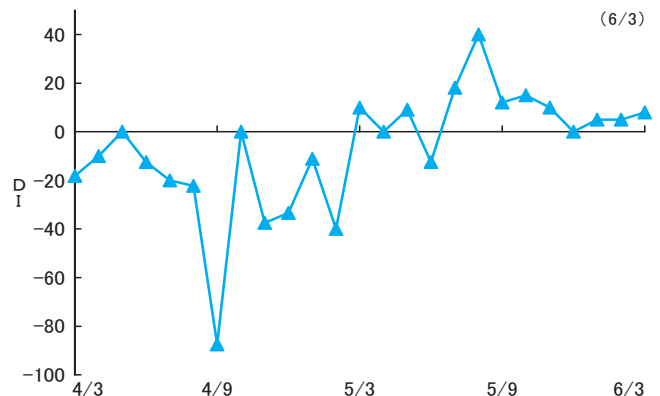
概況 景況DIは前月からやや改善。飲食業は好転との声が多いが、宿泊業は悪化との声が多い

当月の商業・サービス業の業況判断指数（DI）はプラス8.0で、前月から3.0ポイント上昇。

飲食業では、売上が前月比、前年比で増加との声が多く聞かれ、景況感も好転との声が複数聞かれた。宿泊業では業者により景況感の見方が分かれ、好転したとの声よりも悪化したとの声が多かった。小売業、卸売業では景況感は横ばいとの声が多かった。

小売業や飲食業の一部からは、値上げによって売上が増加傾向にあるが、客数は減少している、また利益率が悪化しているとの声が聞かれた。

商業・サービスDI



主な業種の動き

●小売業 概況 売上は前月比は業者により増減分かれる。景況感は横ばいとの声が多い

☑売上… 前月比は業者により増減分かれる。前月比は増加との声はやや多い。景況感は横ばいとの声が多いが、一部に悪化との声も。

[企業からのコメント]

- ・昨年秋から売上は増加傾向にあり順調に推移している。特に生鮮部門の売上が順調。
- ・地公体の商品券使用期限だったため、駆け込み需要で売上、単価とも上昇。来月はその反動で減少が見込まれる。
- ・来店客数は減少。また値上げにより一人当たりの購入点数も減っている。

●卸売業 概況 売上は前月比は業者により増減分かれる。景況感は横ばいとの声が多い

☑売上… 食肉の売上は前月比やや減少。食品、青果、菓子、電設資材は前月比でやや増加。

[企業からのコメント]

- ・野菜は、2月に比較的暖かい気温で生育が早まったが3月は気温が低く雨の日が多く品薄による高値の品目があり、特に白菜、ブロッコリーが高く、大根、キャベツ、人参、ねぎ、胡瓜、玉ねぎも高値となった。野菜全体では入荷量増、価格やや高。果実は、みかんをはじめ順調な入荷で価格も良く、年越しのふじ（りんご）も全国的な品薄により価格高、苺も天候の影響を受けて入荷減、価格高。果実全体では、入荷量やや減、価格高となった。
- ・年度末を迎え、物件・現場の締め作業が多かった。4月から時間外労働関連の基準が施行され、業界においても、流通遅延、工期延長、販売単価上昇など大きな影響を受けている。各業界の一部のみが悪影響を受けないよう、元請けから再下請けまで協力し、情報を共有しながら進めていきたい。
- ・飯伊地域の落ち込みをカバーするため、新規商談に積極的に取り組んでいるが、県境を越えた商談はなかなか成約にならない。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 飲食業の売上は前年比ではやや増加～増加。宿泊業では業者により増減分かれる。景況感は、飲食業では横ばい～好転、宿泊業では業者により見方が分かれるが、悪化との声はやや多い

☑売上… 飲食業は前月比では業者により増減分かれるが、前年比ではやや増加～増加。宿泊業では前月比、前年比とも業者により増減分かれる。

[企業からのコメント]

- ・「客数的にはコロナ前の3月に戻っていないが、売上の効果によるものだが、物価高騰の影響で利益率は落ちている」「気温の変化が激しく、売上也変わってくる。2024年問題や4月からの値上げなど、景況がどう変化するのか心配」「2月3月は連休や春休み期間の影響から非常に良かった。しかしGW以降～7月中旬位までは落ちてくる予想」
- ・「ヘブンスそのはらのゴンドラ停止、県道園原線の通行止めという二重の災害に困惑。復旧のめどが不明確で観光客が伸びない一因になっている」「県道通行止めとヘブンスの事故が重なり、キャンセルが目立っている」「ヘブンスのゴンドラ故障による営業休止でナイトツアー客が激減している。再開についても延期の知らせばかりで、今後の動向が見えてこない」「1年前と比べて予約が増加してきている。コロナの影響はかなり薄れたと感じる」
- ・2024年問題、ライドシェア問題、乗務員不足と大変厳しい環境の中、タクシー業界でも24時間営業が当たり前でなくなってきた地域もある。業界として地域のサービスが低下しないような対策を講じる必要がある。
- ・運送代が上がれば全てが値上がりする。正当に商いをするなら値上げをしなければならないが、お客に負担がかかる。

リニア中央新幹線についての定点観測アンケート

～ 当地域の期待度は高水準で推移 ～

当研究所が毎年定期的実施している「リニア中央新幹線についての意識調査」アンケートの平成5年度調査を本年3月に実施した。その結果を報告する。

1. 今回は女性回答者が過半数、広範囲からのご意見が

今回のアンケートは『飯伊地区産業経済動向』（以下『動向』）の調査先および発送先（読者）に加え、金庫の営業店窓口等でお取引先様に広くご協力をお願いしたことから、女性の回答者数が男性のそれを上回った。

それにより、回答者の職業では「会社員」が半数近くを占め、「会社役員」の比率が30%を切る結果となった。当リニアアンケートでは『動向』調査先・発送先に加えて一般の皆さまにお聞きすることを令和3年及び元年に実施しており、「会社員」等と「会社役員」の比率が交互に変動していることに留意いただきたい。

今回の回答数は261（前回129）に及び、お忙しい中調査にご協力いただきましたことに厚く御礼申し上げます。

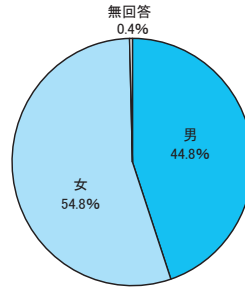
2. 「リニアに期待」は8割台を維持

「Q リニア中央新幹線に期待していますか」は83.4%と前回調査をやや下回るものの8割台を維持している。広く一般の皆さまにお聞きした前々回（令和3年度）調査の77.3%を上回り、同じ調査方法の令和元年度および3年度の水準を超えている。

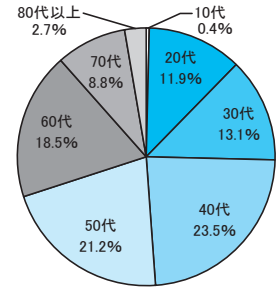
「期待している」を男女別にみると、男女とも80%を超えてほぼ拮抗している。これまでのアンケートでは、女性の期待度が男性より低い傾向が見られたが、徐々に差が小さくなっている。

当研究所のアンケート調査は、企業の経営者層等が中心で産業界・経済界の意識が反映されがちと考えているが、一般の方の意見が多く含まれる今回調査でも80%超の「期待している」があることから、当地域での期待感が底堅いものとみられる。天竜川橋梁や駅周辺整備、関連道路など、工事の進展が当地域内各地で目に見えてきていることも背景と考えられる。

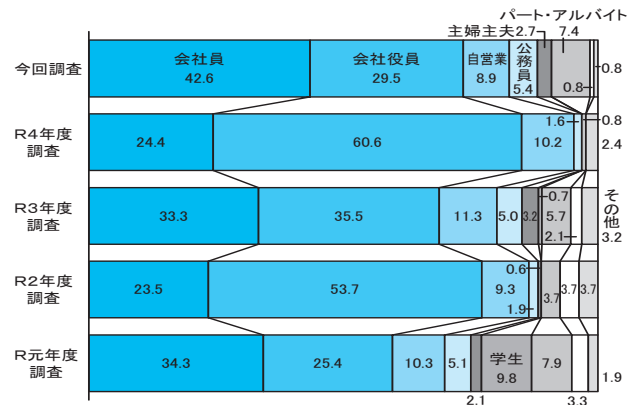
Q 回答者の性別は



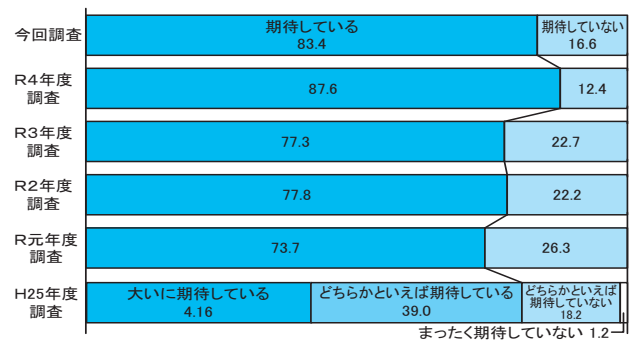
Q 回答者の年齢は



Q 回答者の職業は



Q リニア中央新幹線に期待しますか



Q リニア中央新幹線に期待しますか（男女別推移）



3. 「リニアに不安を感じる」は減少も4割台

次に「Q リニア中央新幹線に不安を感じますか」は、「不安を感じる」が前回調査よりやや減少したが4割台となっている。最初の調査（平成25年）から減少してきたが令和3年度調査から増加に転じ、今回調査では前回調査をやや下回ったものの4割台で推移。男女別にみると予てより女性が男性よりも「不安を感じる」意見が多くみられたが、今回調査では「不安を感じる」は男性の方が比率が高い。

前回調査から、「不安を感じる」の理由として「リニアの開通がいつになるかわからないから」という回答が目立ってきたが、今回調査では、「Q不安を感じる理由」（複数回答）の総数195のうち67と34.4%（前年度調査は総数86のうち28、32.6%）を占めた。

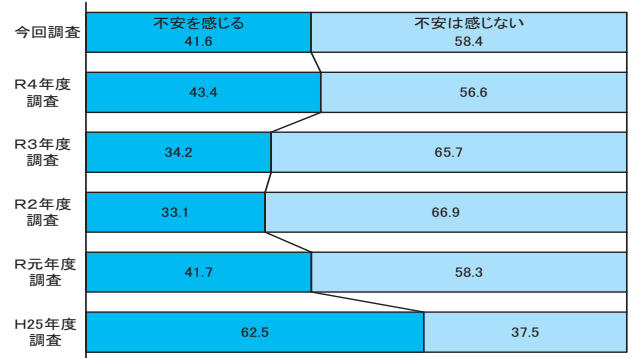
以下「騒音や振動、水や生態系など環境への悪影響」15.9%、「人口の流出」13.8%、「消費の流出」10.8%、「工事中の事故」8.7%、「大手資本や大手流通の地域流入」6.7%、「開通後の事故」4.1%、「その他」5.6%となっている。「その他」の内容としては、「JR東海の情報開示が不十分」、「雇用の確保で大都市企業との獲得競争が激化する、労働力の流出」、「リニアで当地に来てもらうためのブランド戦略が見えてこない、ビジョンが明確でない」、「開業遅れのせいにして当地域の対応が遅れていく恐れ」、「治安悪化」などが挙げられた。

「不安を感じる」理由のうち「開通時期不明」のみを挙げた回答者数がないものとして「不安を感じる・感じない」の比率を出すと、「不安を感じる」回答者の補正後比率は前回調査のそれを更に下回る。

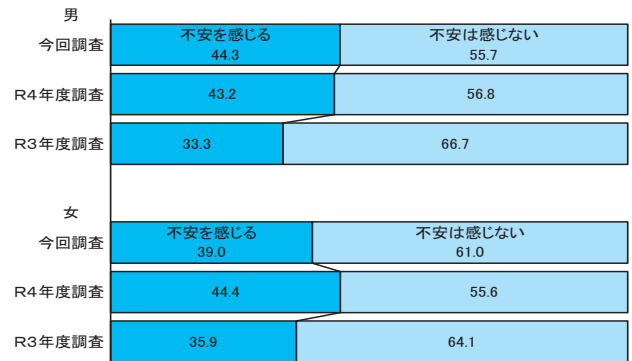
今回調査、前回調査において「不安を感じる」がそれ以前より高まっていることは、南アルプストネル静岡工区の着工見通しが立たないことや全体として工事の進捗が見えないこと、などで先行き不安を感じられていることが大きな要因と考えられる。

リニアに対する不安理由について、「不安を感じる」回答者のうちの「開業時期不明」を挙げている回答者の比率、および「不安を感じる」の理由のうちの「開業時期不明」の占める割合を調査年度別に、併せて今回調査分については男女別の状況も示す。

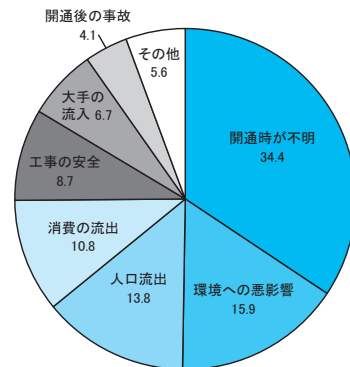
Q リニア新幹線に不安を感じますか



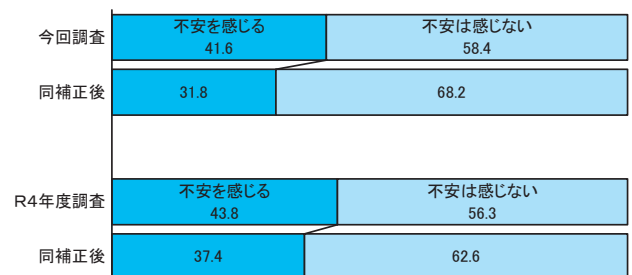
Q リニア新幹線に不安を感じますか（男女別）



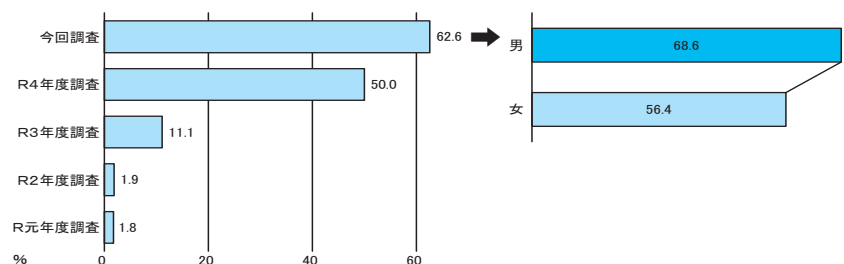
Q リニア新幹線に不安を感じる理由



Q リニア新幹線に不安を感じる（開通時期不明分の補正）



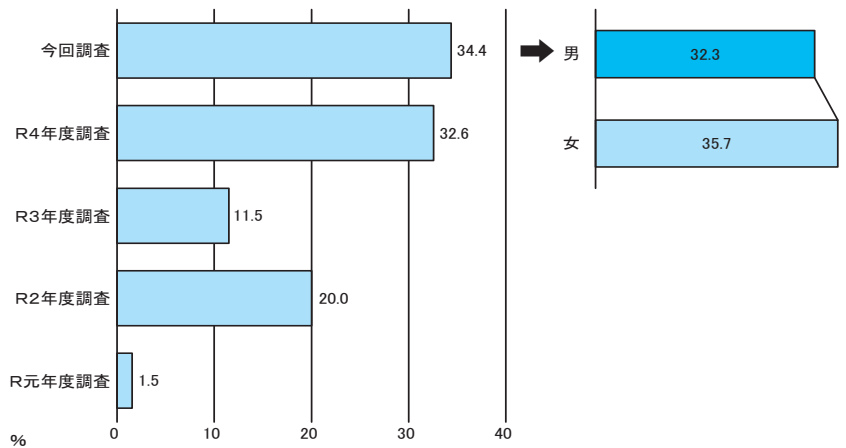
Q「不安を感じる」回答者のうち「開業時期」の割合



これによると、「不安を感じる」とする回答者のうち「開業時期不明」を挙げている比率は前回調査から急激に増加。男女別では男性が高く、開業時期をより心配しているといえる。

挙げられている不安の理由（複数回答）総数のうち「開業時期不明」の割合は女性の方が高く、女性の方がより開業時期についての関心度合いが高いといえることができる。

Q「不安を感じる」理由のうち「開業時期」の割合



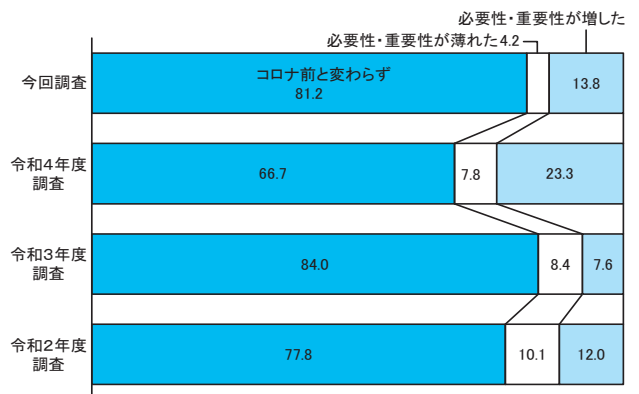
4. コロナ禍を経ての思い「必要性・重要性が増した」は一般にも広がる

コロナが始まって毎回の調査でお聞きしてきた「Q コロナ禍を経て、リニアに対する思いが変わりましたか」は、前回大きく動いたが、今回調査では同じく一般の皆さまにお聞きした前々回調査と似た状況になった。ただ、「必要性・重要性が増した」は前々回7.6%から13.8%と倍近くになっており、「必要性・重要性が薄れた」は前回調査より減少、前々回調査からはほぼ半減という結果となった。

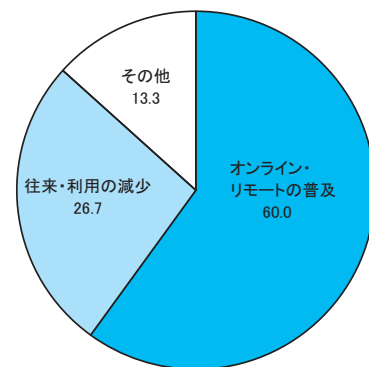
「必要性・重要性が薄れた」する回答者の理由（複数回答）としては、「オンライン・リモートの普及による移動の減少」を挙げたのが60.0%、「往来や新幹線利用の減少」が26.7%、「その他」が13.3%。「その他」の内容としては「人口の減少により東海道新幹線で足りる」、「中間各駅の発展が期待できない」、「飯田が通過点になるだけ」といった意見があった。

「必要性・重要性が増した」とする回答者のうち、「都市部への集中が見直され、短時間で移動できる地方への注目が高まる」を挙げているのは60.0%、「オンライン会議やリモートワークの普及により、Uターンや都会からの移住が増える」は30.0%、「その他」10.0%となっている。「その他」の内容として、「リニア駅があることで大学誘致やイベントの開催などで当地域の優位性が増す」、「大規模災害で東海道新幹線が不通の際のバックアップになる」、「インバウンドの誘客効果」、「(リニアが) 海外への技術移転のショーウィンドーになる」などがあつた。

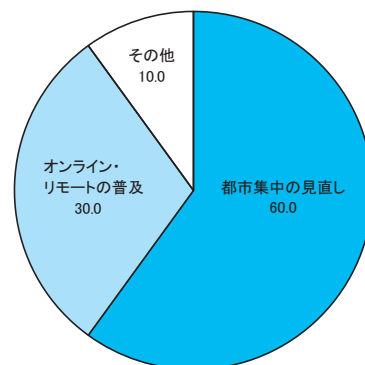
Q コロナ禍を経て、リニアに対する思いが変わりましたか



Q リニア中央新幹線の重要性・必要性が薄れた理由は



Q リニア中央新幹線の重要性・必要性が増した理由は



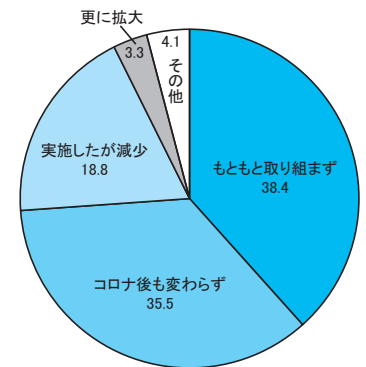
5. アフターコロナの日常生活は 日常に回復したもの・未だのもの

今回調査では、新型コロナウイルス感染症が5類になって初めてのアンケートであることから、当地域の事業所及びご家庭の状況を伺った。

(1) 「Q ウェブ会議、リモートワークの状況は」

最も多かったのが「もともと取り組まなかった」38.4%、続いて「コロナ後も変わらず利用（取り組み）」35.5%、「実施したが減少傾向」18.8%、「更に拡大に取り組む」3.3%の順だった。「その他」では「もともとWeb会議が適さない業種・職種」が複数あった。

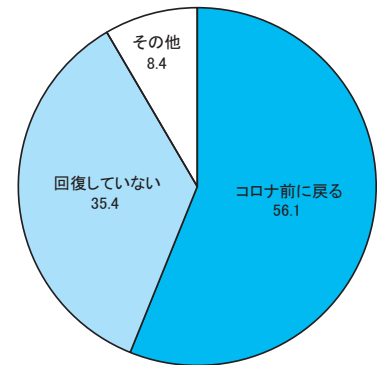
Q Web会議、リモートワークは



(2) 「Q 社内コミュニケーションは」

リアルでの会議や社員による飲み会などの状況は、「コロナ前に戻る」56.1%、「回復していない」35.4%となっている。「その他」には、「（飲み会等）もともとやっていない」、「飲み会は減っている」、「実施したところ感染が発生」などがあつた。

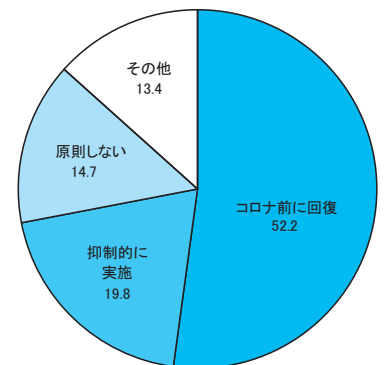
Q 社内コミュニケーションは



(3) 「Q 出張の状況は」

「コロナ前に回復」52.2%、「抑制的に実施」19.8%、「実施しない」14.7%の順。「その他」には、「元々出張がない業種・職種」が複数、「Webで済む先はそのままなので結果として増えていない」など。

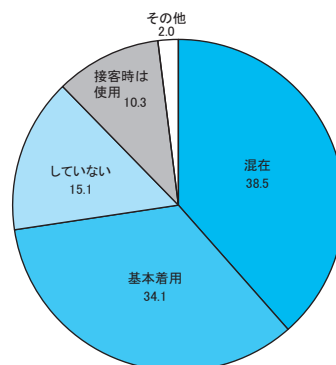
Q 出張の状況は



(4) 「Q 職場のマスクの着用は」

「着用する人・しない人が混在」38.5%、「基本着用」34.1%、「着用していない」15.1%、「接客時は着用」10.3%。「その他」には「元々仕事でマスクする業種・職種」というのがあつた。

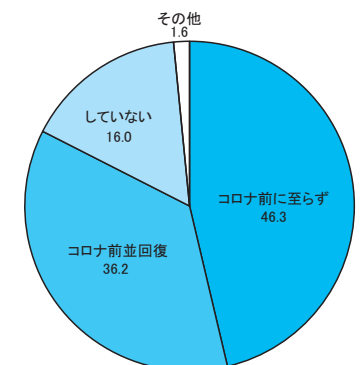
Q 職場のマスクの着用は



(5) 「Q 家族や個人での旅行は」

「コロナ前に至っていない」46.3%、「コロナ前に回復」36.2%、「していない」16.0%となっている。「その他」では、「コロナに関係なく旅行を実施」「コロナ前に復するが、海外にはいかなかった」などがあつた。

Q 家庭や個人での旅行は



皆さまの事業所およびご家庭の状況はいかがでしょうか。

おわりに

本アンケート調査は、令和6年3月に実施し、大半の回答が3月20日頃までに寄せられている。そのため、3月29日の「リニア新幹線品川ー名古屋開業が2034年以降になる」との発表（国の有識者会議）や、4月2日の川勝静岡県知事の辞任表明、同4日の「当地域の座光寺高架橋と保守基地の工期を2031年とする」発表などは、当地域のリニア新幹線への期待度にプラス・マイナスに作用していると考えられる。

それ以降の当地域の皆さまの意識変化がどのようなものか、これからどうなっていくか。今後とも様々な機会を通じてお聞きしていきたい。

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平）

主要経済統計

項目 年月	住宅着工戸数		高速バス乗車人数							
	飯伊地区		飯田～新宿		飯田～名古屋		飯田～長野		伊那・駒ヶ根～新宿	
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比
	戸	%	人	%	人	%	人	%	人	%
平成30年	637	△ 9.6	327,033	△ 0.3	219,979	0.6	112,882	△ 2.4	—	—
令和元	710	11.5	326,056	△ 0.3	226,581	3.0	108,454	△ 3.9	263,821	—
2	771	8.6	102,394	△ 68.6	85,747	△ 62.2	49,063	△ 54.8	71,390	△ 72.9
3	686	△ 11.0	90,496	△ 11.6	77,895	△ 9.2	39,668	△ 19.1	53,800	△ 24.6
4	638	△ 7.0	163,493	80.7	118,343	51.9	40,389	1.8	117,160	117.8
5	712	11.6	253,155	54.8	162,326	37.2	47,075	16.6	195,366	66.8
令和5.1	34	△ 20.9	18,488	67.5	11,653	49.3	3,480	21.8	12,580	66.8
2	70	70.7	14,973	182.8	10,935	111.0	2,954	45.5	11,534	162.4
3	30	△ 21.1	22,085	104.0	14,931	64.7	3,913	24.9	17,595	123.7
4	57	42.5	17,876	65.1	13,060	43.4	4,146	22.8	14,374	69.4
5	68	51.1	21,773	52.6	13,651	34.5	4,307	12.1	16,889	76.1
6	116	75.8	23,884	94.6	11,801	17.3	4,469	△ 1.8	14,081	63.1
7	59	△ 27.2	20,682	46.9	13,603	30.3	3,994	12.1	17,270	75.8
8	53	△ 8.6	28,298	57.4	16,649	51.3	3,959	32.2	21,905	70.1
9	42	△ 2.3	20,383	39.1	13,654	37.8	3,957	19.7	17,445	57.0
10	67	52.3	21,063	22.8	14,222	18.1	4,265	6.2	17,812	42.3
11	59	△ 28.9	20,799	30.2	14,242	25.9	3,986	15.3	16,438	47.4
12	57	1.8	22,851	19.4	13,925	13.6	3,645	11.5	17,443	32.5
令和5.1	44	29.4	21,421	15.9	13,446	15.4	3,480	0.0	16,701	32.8
2	66	△ 5.7	18,557	23.9	13,204	20.7	3,385	14.6	15,412	33.6
3	—	—	24,400	10.5	15,786	5.7	3,958	1.2	20,697	17.6
資料出所	長野県建設部住宅課		信南交通株式会社							

項目 年月	自動車新規登録台数 (松本自動車検査登録事務所管内)				軽自動車新規登録台数 (全国軽自動車協会連合会)			
	新車		中古車		新車		中古車	
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比
	台	%	台	%	台	%	台	%
平成30年	27,525	0.6	7,352	1.1	50,960	4.1	11,577	△ 1.7
令和元	29,312	6.5	8,548	16.3	51,498	1.1	12,069	4.3
2	26,002	△ 11.3	8,674	1.5	47,551	△ 7.7	12,591	4.3
3	24,672	△ 5.1	8,716	0.5	44,333	△ 6.8	12,880	2.3
4	22,564	△ 8.5	8,133	△ 6.7	44,005	△ 0.7	12,455	△ 3.3
5	26,537	17.6	8,240	1.3	47,269	7.4	12,670	1.7
令和5.1	1,852	5.0	428	△ 18.3	3,967	23.2	809	3.2
2	2,110	18.4	559	△ 10.8	4,266	15.6	866	6.0
3	3,758	25.3	875	△ 1.4	5,453	13.3	1,124	△ 2.5
4	1,941	18.2	730	△ 2.7	3,630	8.3	1,775	△ 0.5
5	1,852	34.9	666	△ 0.9	3,131	17.5	1,196	△ 1.2
6	2,215	36.3	771	△ 1.9	3,581	△ 0.7	1,240	4.2
7	2,121	14.4	700	△ 5.3	3,409	△ 8.9	997	△ 3.9
8	1,840	9.3	682	10.2	3,365	13.5	901	△ 2.1
9	2,388	14.7	662	4.3	4,416	8.3	962	△ 1.6
10	2,210	14.6	736	13.6	4,081	△ 0.5	988	7.4
11	2,314	14.9	713	14.8	4,200	0.5	917	6.5
12	1,936	6.5	718	14.9	3,471	△ 3.6	895	11.9
令和5.1	1,756	△ 5.2	564	31.8	2,816	△ 29.0	815	0.7
2	1,767	△ 16.3	672	20.2	3,050	△ 28.5	896	3.5
3	2,797	△ 25.6	962	9.9	—	—	—	—
資料出所	長野運輸支局松本自動車検査登録事務所				一般社団法人全国軽自動車協会連合会長野事務所			

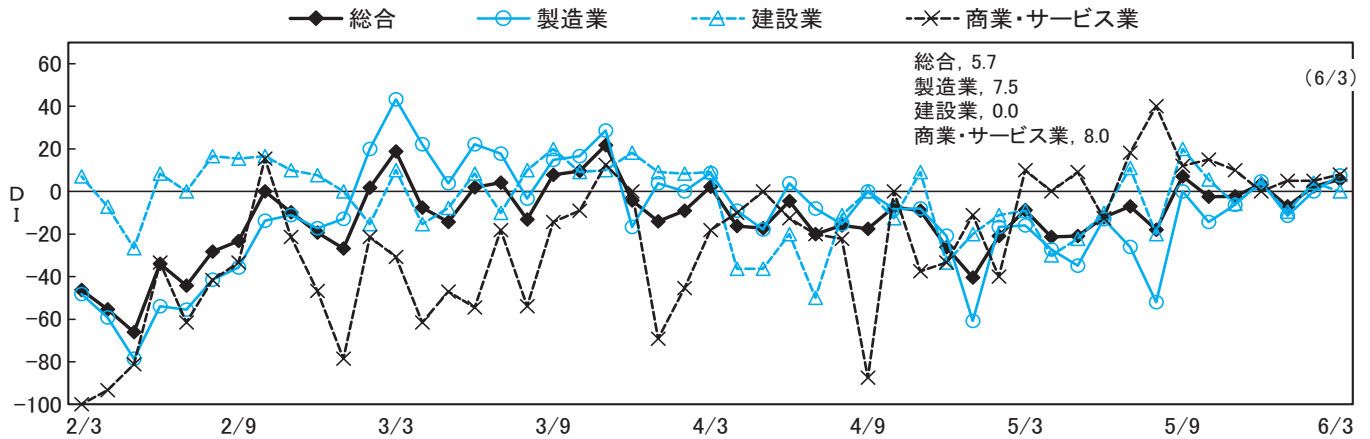
項目 年月	有効求人倍率			倒産件数 (負債額1千万円以上)		信用保証承諾 (飯田支所管内)	
	長野県	飯田管内		長野県内	飯伊地区	新規保証	前年比
	季節調整値 (但、年平均は実数)	パート含む実数	パート除く実数				
	倍	倍	倍	件	件	件	%
平成30年	1.69	—	—	93	20	1,815	△ 5.2
令和元	1.60	—	—	79	8	1,842	1.5
2	1.16	—	—	80	8	3,707	101.2
3	1.33	—	—	66	9	1,799	△ 51.5
4	1.54	—	—	70	9	1,446	△ 19.6
5	1.45	—	—	73	8	1,669	15.4
令和5.1	1.56	1.60	1.83	6	0	121	53.2
2	1.51	1.64	1.80	4	1	128	15.3
3	1.50	1.63	1.73	8	1	172	9.6
4	1.49	1.51	1.77	4	0	125	42.0
5	1.48	1.47	1.73	6	0	121	14.2
6	1.46	1.56	1.79	4	0	144	12.5
7	1.44	1.58	1.77	7	2	131	20.2
8	1.44	1.56	1.82	10	1	118	16.8
9	1.42	1.53	1.79	7	1	168	10.5
10	1.41	1.55	1.78	9	0	149	33.0
11	1.38	1.52	1.75	3	1	150	14.5
12	1.36	1.55	1.81	5	1	142	△ 17.4
令和5.1	1.37	1.47	1.73	8	0	132	9.1
2	1.35	1.39	1.57	5	1	135	5.5
3	—	—	—	—	—	200	16.3
資料出所	長野労働局・ハローワーク飯田			南信州地域振興局商工観光課		長野県信用保証協会飯田支店	

※数値は発表者によって予告なく改定されることがあります。

項目 年月	中央道利用台数 (インターチェンジ出入合計)									
	飯田 I C		松川 I C		園原 I C		山本 I C		座光寺 S I C	
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比
	台	%	台	%	台	%	台	%	台	%
平成30年	2,765,376	0.2	1,871,062	0.3	423,828	15.1	1,017,497	△ 0.1	—	—
令和元	2,741,865	△ 0.9	1,836,395	△ 1.9	405,661	△ 4.3	1,015,783	△ 0.2	—	—
2	2,191,489	△ 20.1	1,539,468	△ 16.2	330,231	△ 18.6	849,805	△ 16.3	—	—
3	2,069,577	△ 5.6	1,334,516	△ 13.3	328,892	△ 0.4	896,142	5.5	—	—
4	2,192,851	6.0	1,331,034	△ 0.3	380,886	15.8	1,045,343	16.6	799,207	—
5	2,330,747	6.3	1,397,630	5.0	365,362	△ 4.1	1,143,659	9.4	904,767	13.2
令和5.1	168,796	7.9	96,345	8.4	23,687	4.8	68,121	5.3	65,568	23.6
2	162,177	16.6	89,851	13.3	21,709	6.5	66,664	13.4	61,569	27.8
3	202,791	11.6	115,990	9.3	25,652	13.5	89,892	16.7	77,315	20.5
4	188,707	7.0	109,237	4.8	54,801	32.2	100,893	10.8	73,053	12.1
5	198,593	4.4	112,401	2.0	29,940	△ 14.1	98,271	6.2	77,275	12.1
6	185,229	△ 0.6	112,432	△ 0.3	23,657	△ 10.1	91,355	9.8	73,695	△ 0.6
7	204,517	7.8	121,664	8.0	33,101	△ 5.6	104,621	17.7	79,978	14.5
8	210,379	10.2	127,431	9.0	34,287	△ 4.7	107,905	9.4	80,031	16.8
9	201,388	5.5	125,935	6.4	29,683	△ 10.6	98,469	4.2	78,741	13.9
10	209,245	0.9	136,392	0.9	38,804	△ 16.3	112,661	0.0	81,020	5.3
11	207,256	6.1	136,602	3.3	29,333	△ 25.8	120,986	15.6	80,404	12.4
12	191,669	1.6	113,350	△ 0.7	20,708	△ 8.2	83,821	6.5	76,118	9.4
令和5.1	174,468	3.4	95,256	△ 1.1	21,343	△ 9.9	73,735	8.2	70,502	7.5
2	164,373	1.4	89,342	△ 0.6	17,906	△ 17.5	74,131	11.2	66,393	7.8
3	193,758	△ 4.5	106,481	△ 8.2	10,991	△ 57.2	97,991	9.0	80,421	4.0
資料出所	中日本高速道路(株)名古屋支社飯田保全サービスセンター									

飯伊地区全産業景況DIの推移

飯伊地区景況DI (本誌調査)



飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数	前月比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比
倒産件数 (負債総額1千万円以上) (2月)	県内	5件	(前月 8件)	(前年同月 4件)	(前々年同月 3件)	(令和元年同月 4件)
	飯伊	1件	(前月 0件)	(前年同月 1件)	(前々年同月 0件)	(令和元年同月 0件)
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数) (2月)		66戸	50.0%	△ 5.7%	61.0%	65.0%
有効求人倍率 (パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内) (2月)		1.39倍	(前月 1.47倍)	(前年同月 1.64倍)	(前々年同月 1.45倍)	(令和元年同月 1.38倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,797台	58.3%	△ 25.6%	△ 6.7%	△ 23.8%
	中古車	962台	43.2%	9.9%	8.5%	7.8%
軽自動車新規登録台数 (全国軽自動車協会連合会) (2月)	新車	3,050台	8.3%	△ 28.5%	△ 17.3%	△ 36.2%
	中古車	896台	9.9%	3.5%	9.7%	17.1%
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	96,569台	17.9%	△ 4.1%	6.8%	△ 17.7%
	出	97,189台	17.9%	△ 4.8%	6.4%	△ 18.5%
中央道利用台数 (松川インター分)	入	55,513台	19.9%	△ 8.1%	2.3%	△ 27.5%
	出	50,968台	18.4%	△ 8.3%	△ 1.7%	△ 30.4%
中央道利用台数 (園原インター分)	入	5,580台	△ 39.1%	△ 57.6%	△ 50.3%	△ 58.2%
	出	5,411台	△ 38.1%	△ 56.7%	△ 52.5%	△ 60.3%
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	48,728台	32.0%	10.3%	25.6%	24.7%
	出	49,263台	32.4%	7.7%	28.7%	28.1%
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	40,468台	19.7%	2.7%	25.3%	—%
	出	39,953台	22.6%	5.4%	25.4%	—%
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		200件	48.1%	16.3%	27.4%	14.9%
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		2件	(前月 7件)	(前年同月 5件)	(前々年同月 3件)	(令和元年同月 4件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	24,400人	31.5%	10.5%	125.4%	△ 20.5%
	飯田～名古屋	15,786人	19.6%	5.7%	74.1%	△ 22.1%
	飯田～長野	3,958人	16.9%	1.2%	26.4%	△ 59.8%
	伊那・駒ヶ根～新宿	20,697人	34.3%	17.6%	163.1%	△ 18.0%
市内循環バス乗車人数	左回り	3,033人	14.0%	3.0%	△ 1.0%	△ 18.6%
	右回り	3,106人	12.8%	9.1%	4.4%	△ 11.8%